

韓国における番組流通 専門会社の設立構想について

金正勲

慶應義塾大学デジタルメディア・
コンテンツ統合研究機構 准教授

韓国の番組流通市場の問題

- 国内における番組の多メディア流通不足
- 独立制作会社の細分化と流通能力の不在
- 地上波放送局と制作会社間での力の不均衡とそれによる弊害（例：需要者独占による制作会社の低い価格交渉力）
- 権利処理/活用能力の不足による番組関連著作権の放送局への譲渡

番組流通専門会社設立(案)

- 実効性に疑問がある制作支援政策への補完策
- 流通構造の合理化と制作市場の活性化を同時推進するための手段
- 番組流通能力の向上による韓流ブームの継続
- 設立時は、公的支援による独占形態でスタートし、一定期間経過後、利益を創出する時期に競争を導入

主要関係者の反応

- 制作会社：ポジティブ（小規模で分散している制作会社の交渉力をまとめあげることを歓迎）
- 放送局：ネガティブ（編成権と関わる外注比率政策に比べ、反対の根拠が相対的に弱い）
- 権利者：留保（当面は見守る姿勢。新会社が軌道に乗り、実績を作り出すようになるとポジティブに転換する可能性大）

権利情報収集/権利処理について

- 著作権法上は、制作会社に著作権帰属。ただ、制作会社に権利処理/活用能力がないこともあり、放送局側に包括的な権利譲渡
- 新会社は、制作会社から権利情報を収集し、権利処理/活用を代行